

# あさひの

2024

No.78

TAKE FREE

当院の目指す地域医療

『サン あさひの』いよいよ5月オープン!





# 当院の目指す地域医療

## 清川 哲志 病院長

熊本大学医学部大学院 修了

2017年 国立病院機構 熊本医療センター 副院長

2019年 朝日野総合病院 院長補佐

2024年 朝日野総合病院 病院長 就任

病院長

きよかわ

清川 哲志

てつゆき

リウマチ内科

この度2024年4月1日付けで病院長に就任いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。前任の野村先生の11年間に渡る多大なるご尽力とご指導に心より感謝申し上げます。野村先生の掲げたキーワードは「連携」です。地域医療のために各医療機関、療養施設等との顔の見える連携ネットワークを作り、院内では高齢者医療を支える各部門の連携と協力体制を強化し、さらに地域の救急医療を支えるために消防署や基幹病院との連携を強くしました。私もこの連携の輪を広げていく努力を続けたいと思っています。

高齢化社会における課題は、高齢者の増加に伴う医療・介護ニーズの増加です。高齢者の健康管理と疾病管理がますます重要となり、それに伴い、包括的な医療・福祉サービスの提供が求められています。私は5年間当院で総合内科医として高齢者医療に携わってきました。超高齢化社会における疾患の多様

性、複雑性は増しており、治療には各科スタッフの協力が必要です。入院する程の病であると、従来の暮らし自体に戻れないことも多くなって参ります。若い人であれば、骨折、手術、リハビリテーション、そして社会復帰へと進む療養が、多くの疾患を抱えた高齢者では入院をきっかけに暮らし方を根本から変えることとなります。患者様の生活の立て直しには、ご家族、社会背景を含めての細やかな支援体制を作り、暮らしを支えることが必要です。そのために当院では、多職種がそれぞれの専門性を活かして患者様と向き合いながら連携し、患者様やご家族から必要とされるチーム医療を提供致しております。

現代社会の重い縮図である高齢者医療の中で、患者様やご家族と共に立ち向かい新たな解決方法を見つけていかねばなりません。このような医療活動のため私達は地域の健康増進活動や啓蒙活動に積極的に参画し、住民の方々が抱えている健康と暮らしへの不安を少しでも減らすよう努力を重ねて参ります。

当院は「愛する人を安心して任せられる病院の創造」という理念の下、40年以上に亘り、一貫して地域の皆様に信頼される医療機関となるべく医療活動を行って参りました。今後とも職員一丸となって地域医療に努めて参りますので、宜しくご協力ご鞭撻のほど心よりお願い申し上げます。



## 地域包括ケア 病棟の役割

本2病棟師長 帯田 味奈



本2病棟(地域包括ケア病棟)

『地域包括ケア病棟』は、急性期治療を経過し、病状が安定した患者様に対して、住み慣れた地域での療養（在宅や一部に介護施設への復帰）を支援する病棟です。地域包括ケア病棟に入院できる最大日数は60日と決められています。そのため、退院支援を行う際に多くの方は介護保険を利用されますが、介護保険の申請から認定が下りるまで、1か月程度かかります。その間、適切な治療・生活環境を構築するため、服薬調整、栄養指導（栄養相談や指導）、機能訓練を行い必要な方には介護サービスを調整し、自宅で生活ができるように支援を行います。

自宅に帰るのが困難な場合は、施設申し込みをされる方も多くいらっしゃいます。他にも、御本人や御家族の方に必要な処置の方法や、介護の方法などを覚えられる時間として、包括ケア病棟を利用できます。また、看取りの対応も可能です。

急性期病院を退院される時に、直接自宅退院されるのが不安な状況であれば、病院スタッフにご相談下さい。安心して療養生活が送れるようお手伝い致します。



【地域連携室スタッフ】片刈 茂医師(中央)

## 地域医療福祉 連携への取り組み

当院では患者様やその御家族が安心して入院治療、退院後の在宅診療・介護を一貫して受けることができ、るように取り組んでいます。現在、医療、介護、福祉の分野では機能分化が大きく進んでいます。患者様の状態にあわせて、治療する病院、入院する病棟、長期療養する施設、在宅診療所を選択する必要があります。

当院は、30余科の診療科を有する総合病院であり、地域連携室では他の医療機関や施設から紹介があった患者様に最も適した診療科、主治医、病棟を選択し入院して頂きます。手術が必要な時にはクリーン度の

高い手術室の設備を有する当院で、優れた外科系医師が手術を実施しています。当院はケアミックス型病院であり、急性期から慢性期、緩和ケア（癌終末期）まで対応しており、ほぼすべての病気の患者様が入院できます。病棟は7種類あり、急性期一般病棟、障害者施設等病棟、療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、特殊疾患病棟、緩和ケア病棟と多様です。

入院治療が終わり退院される患者様を自宅や次の最適な施設や在宅診療所に繋ぐ役目は、病棟内で多職種による退院前カンファレンス

で行っています。カンファレンスには、御家族やケアマネジャー、施設職員も参加して頂き、現在の日常生活動作の状況や退院後に必要な介護に合わせてリハビリなどの目標設定を行い、受け入れ先の選定と準備を行います。また、自宅で介護が必要な患者様に対しては訪問看護や訪問リハビリを導入し、地域全体で連携し安心して生活できるような環境づくりを進めています。

地域の患者様にとって最適な医療を提供することも、地域の医療機関や福祉施設等と連携を深め、地域全体の医療水準向上に寄与して参ります。

院長補佐  
緩和ケア科部長  
地域連携室長

片刈 茂  
かたふち しげる  
外科(消化器外科)

## 朝日野居宅 介護支援センターの紹介 朝日野訪問看護ステーション センター長 原口 篤子

当支援センターは平成12年介護保険と同時に開設致しました。要介護の状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、介護保険サービスの相談、申請、プランニング等を行ってまいります。同時に通所リハビリ、訪問看護、訪問リハビリなども準備し、最期まで自宅で過ごしたい方や医療器具を自宅で利用される方等、医療の必要な方々にもご利用いただいております。

またこの度は、サービス付き高齢者向け住宅「サンあさひの」を来る5月1日に熊本電鉄北熊本駅前オープンする運びとなり、更に安心して地域で過ごしていただけますよう準備致しております。





本稿では、現代の医療現場は各職種の連携や共同作業で成り立っているという実例を示したいと思います。

私は脳卒中中、とくに脳梗塞を専門にしています。脳梗塞の原因は加齢、ならびに「危険因子(リスクファクター)」と呼ばれる高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、喫煙などです。また、不整脈(心房細動)、一部の心臓病、慢性腎臓病も発症リスクになります。

急性期脳梗塞の患者様が入院した場合、治療のため主に用いるのは脳保護薬や抗血栓薬です。後者は「血液サラサラの薬」と説明されますが、要は「出血を助長する薬」。急性期が過ぎても、再発予防のため抗血栓薬は基本的に内服薬で続けます。もし身体に出血源となる病変があれば、そこから出血し、いつの間にか貧血になることがあります。場合によっては輸血をせねばならないというケースも。鼻血が止まらない、胃潰瘍からの出血、痔からの出血、血尿、眼の中の出血など、多様な病因があり、当院の各専門医師に治療をお願いすることしばしばです。

脳梗塞で嚔下が悪くなる場合があります。誤嚥性肺炎は脳梗塞患者様が急変す

第78回  
健身控え帳

院内の医療連携  
理事長代理兼統括院長  
清水 治樹  
(脳卒中診療科)

広報誌リニューアルに伴い、タイトルを「健診センター通信」から「健身控え帳」と変更しました。身体を健やかに保つための情報として、これからも連載を続けます。是非、メモしてご利用ください！



原因の大きな部分を占めています。速やかに抗菌薬で治療を開始しますが、喫煙者(特にヘビースモーカー)の方は難治のことも多い為、呼吸器専門医にコンサルトすることもあります。また、当院には抗菌薬を選択するうえで相談出来る感染症に詳しい薬剤師もいます。嚔下・発声が悪いなった場合、耳鼻咽喉科医や言語聴覚士からなるチームに相談しています。基礎疾患に慢性腎臓病や腎不全がある方も多いのですが、腎臓専門医や透析スタッフが揃っていることで、心理的に安心して治療に専念できます。

軽症の糖尿病であれば私が自身で血糖をコントロールするのですが、難渋する場合は代謝内科専門医を頼ったりしています。麻痺がある方は移動や歩行が不安定ですが、転倒して運悪く骨折した場合にも、大抵の場合は院内で対応が可能です。

このように、脳梗塞を発症する方は多彩な基礎疾患を有することが多く、合併症や後遺症も多岐に渡るため、当院のようなコンパクトな総合病院は診療に有利であると常々感謝している次第です。



# 自分らしく暮らす

安心感に包まれて、安全に暮らせるよろこび

「サン あさひの」は、サービス付き高齢者向け住宅です。  
医療法人 朝日野会が入居者様の健康をサポートし、  
ずっと安心して暮らし続けることができる、理想の住環境をご用意いたしました。  
快適なワンルームで自分らしい毎日をお過ごしいただけます。

ご相談・お問合せ

「サン あさひの」開設準備室

【受付時間】  
月～金 9:00～17:00  
(祝日・年末年始を除く)

TEL.096-274-1130

お気軽にお電話ください。

<熊本電鉄 電車・バス>

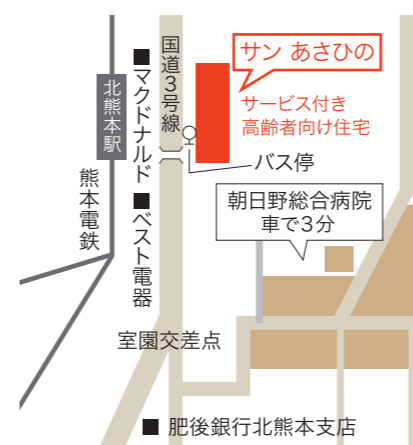
- 北熊本駅 徒歩3分
- 北熊本バス停 徒歩1分



ご見学にもお気軽にお越しくださいませ。



開設準備室長の場(まとは)



## 肩こり改善

### 介護予防体操

## かたんなっせ体操

### 第1回 肩のストレッチ編

総合リハビリテーションセンター  
理学療法士 森 賢二郎

肩の横と後ろの筋肉を伸ばします



この筋肉が固くなると、肩甲骨の動きが悪くなり、肩こりや猫背の原因となります。

- 1 肘に反対側の手をひっかけて、腕を自分の方へ引き寄せます。
- 2 背筋を伸ばし、息を吐きながら引き寄せましょう。

肩回りの筋肉を伸ばします



肩甲骨の動きを良くし、また肩回りの血流やリンパの循環を改善します。

- 1 指先を肩に付けた状態で、肩回しをします。
- 2 胸を張った状態で、ゆっくり大きく回します。





医療法人 朝日野会

朝日野総合病院

〒861-8072 熊本市北区室園町12番10号  
TEL 096-344-3000 FAX 096-343-7570

